令和６年度研究プロジェクト計画概要

研究種別	■自主研究 12	公益目的事業　17
主査名	高橋孝明　東京大学教授	
研究テーマ	輸送ネットワークと都市の空間構造の研究	

輸送ネットワークと都市の空間構造の関係は、これまでも、都市経済学・空間経済学の中心的なテーマの一つであった。近年、それに関連して、これまでに見られなかった新しい問題が現れ、その解明と政策的な対応が喫緊の課題になっている。

本研究は、現在進行中でまだ解決策が見つかっていない都市の空間構造と都市内の輸送ネットワークに関する新しい問題をとりあげ、そのメカニズムを解明し、政策的な対応を探るものであり、主に三つの問題を扱う。

第一に、地方の中小都市における公共交通の衰退の問題を考える。その際、とくに、公共交通と都市の空間構造の相互依存関係に注意を払う。一方で、都市の空間構造の変化は公共交通に対する需要に影響する。たとえば、都市が郊外化し、中心市街地が衰退したことによって公共交通に対する需要は減少してきた。他方で、公共交通の衰退は都市の空間構造を変化させる。公共交通が全面的にあるいは部分的に廃止されたり運行の頻度が減らされたりしたことによって、自動車利用と郊外化が一層進み、中心市街地の衰退に拍車がかかる。

第二に、都市のコンパクト化の問題を考える。都市の人口規模が縮小するなかで、都市の生産性を維持し、消費者がアクセスできるアメニティーのレベルを保つには、これまで以上に十二分に集積の経済の便益を受ける必要がある。そのためには、都市をコンパクト化することがますます重要になる。都市のコンパクトさを決めるもっとも重要な要因は、都市内交通のあり方である。

第三に、リモートワークの進展は、輸送ネットワークのあり方と都市の空間構造に大きな影響を及ぼしている。東京のような大都市では、郊外化の傾向が強まると同時に、鉄道の利用が減少して、鉄道会社は輸送サービスを削減する等さまざまな対応を行っている。これらの傾向が一時的なものなのか、多少なりとも永続するものなのかを見極め、その問題点を検討する。

具体的な研究の進め方として、まず、これら新しい問題が発生するメカニズムを空間経済学の理論モデルを用いて明らかにする。次いで、イベントスタディー、数量空間経済学（Quantitative Spatial Models）の手法などを用いて、そのメカニズムを定量的に解析する。さらに、理論分析と数量的分析の両方を通じて、そうした問題を是正する政策の経済効果を調べる。その際には、反実仮想分析問題（counterfactual analysis）によって、政策の効果の大きさを定量的に示すことも試みる。